

全苗連だより

Vol. 103 (11月号)

令和4年11月1日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

第6回全苗連生産者の集い 宮崎で盛大に開催されました

3年ぶりに旧交を温めることができました

『第6回 全苗連生産者の集い』が9月29日(木)から30日(金)の二日間、宮崎県宮崎市をメイン会場にして盛大に開催されました。

開催に当たり、ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げ、その内容を次のとおり報告いたします。

【生産者の集い】(初日の9月29日開催)

宮崎県宮崎市湊町にある「宮崎市民文化ホール」に321名が集いました。林田喜昭宮崎県緑化樹苗農業協同組合代表理事組合長が開会のことばを述べ、主催者を代表して大森茂男全苗連会長による挨拶、河野俊嗣宮崎県知事並びに清山知憲宮崎市長の歓迎の挨拶に続き、ご来賓を代表して織田央林野庁長官(代理 小坂善太郎森林整備部長)から祝辞を受けました。



林田喜昭宮崎県苗組組合長の開会の挨拶



大森茂男全苗連会長主催者挨拶

続いて、全国山林苗畑品評会・山林種苗等生産事業功労者・永年勤続常勤役職員の表彰が行われ、36名の方が表彰されました(表彰者名は[別添1]参照)。受賞者を代表して、全国山林苗畑品評会で農林水産大臣賞を受賞された宮崎県田野町在住の長倉良守さんが謝辞を述べました。

表彰式のあとは、講演並びに佐賀県・福岡県・鹿児島県の生産者3名による生産者

状況報告が行われました。

講演は、宮崎県林業技術センター三樹陽一郎育林環境部研究員から、「宮崎県における優良さし木苗生産について」の演題で宮崎県の種苗生産等の状況を解説されました。

生産者状況報告では、佐賀県山林種苗緑化協同組合理事長の織田繁実さん、福岡県樹苗農業協同組合の



小坂善太郎林野庁森林整備部長の祝辞

熊本廣文さん、鹿児島県山林種苗協同組合の砂田博文さんが登壇され各県の活動状況を発表しました。

次に、全国の苗木生産者が一堂に会したことを一層有意義なものとし、関係方面に広くアピールしていくために、生産者の集いの決議文を採択することになり、原案を宮崎県緑化樹苗農業協同組合木佐貫光一副組合長が読み上げ、満場一致で採択されました。〔別添2〕

続いて、次期開催地の和歌山県への引き継ぎが行われ、全苗連旗が林田組合長から井内優和歌山県山林種苗協同組合理事長へしっかりと手渡されました。井内理事長の挨拶の際に大スクリーンに映し出された和歌山県の紹介映像には参加者皆が引きつけられ、早くも来年の全苗連生産者の集いの機運が盛り上がりました。

最後に、全苗連織田繁実副会長より閉会のことばがあり、第6回全苗連生産者の集いは盛会裏に終了しました。

また、同日午後6時から、沢山のご来賓にも出席していただき、「MRT micc ダイヤモンドホール」において情報交換会が和やかにそして温かに開催されました。

【全苗連生産者の集い・視察旅行(宮崎県内にて)】

翌日は、宮崎県内の種苗生産地研修並びに宮崎県の歴史、景観等に触れ合う視察旅行が3コースに分かれて実施され、宮崎への理解が一層深まる一日となりました。

[別添1]

☆ 令和3年度 全国山林苗木品評会 ☆

農林水産大臣賞 注1;順不同 注2:*コンテナ苗(以下同)

北海道 長沢 勇一

茨城 稲田 満*

栃木 高山 文雄*

東京 森田 泰夫

広島 寺田 正法

宮崎 長倉 良守*

林野庁長官賞

北海道 尾田 美敬*

岩手 吉田 正平*

岩手 横田 忍*

秋田 社会福祉法人 花輪ふくし会*

福島 株式会社 川上種苗園*

茨城 飯塚 聖二*

栃木 柏木 修*

長野 上条 祐一郎*

長野 中村 誠*

三重 鶴飼 薫

和歌山 株式会社 井内屋種苗園 代表取締役 井内 優*

鳥取 西谷 明彦*

岡山 野澤 正人*

岡山 小林 亮太

愛媛 丹生谷 昌昭*

福岡 野口 利浩

熊本 高橋 公雄

宮崎 木佐貫 光一

☆ 令和4年度 山林種苗等生産事業功労者 ☆

全苗連会長賞

北海道	関谷 良夫
岩手	鈴木 和彦
秋田	高橋 正勝
滋賀	宮城 定右衛門
兵庫	大畑 丑太郎
山口	萩原 研治
熊本	坂本 英治

☆ 永年勤続常勤役職員 ☆

全苗連会長賞

北海道	平川 和子
北海道	三本漆 岳人
青森	石田 順子
岡山	矢野 奈緒美
熊本	村山 裕美

第6回全苗連生産者の集い決議文

令和4年度は、昨年度から続くコロナウィルス感染症に起因する経済危機・苦境の中でスタートした。世界的な人流及び流通網の制限と混乱は、工業製品、農畜産物、原油等の不足並びに高騰を招いた。コンテナ苗生産に欠かせないコンテナ容器の値上げやココピート等培土資材の流通量の減少並びに価格の上昇、ハウス用資材の値上げ、ボイラー用燃料の値上げ等が起きている。更には、今年2月下旬のロシアによるウクライナ侵攻は物価高に一層の拍車を掛ける事態となり生産コストの上昇が続くのではないかと懸念されている。

そうした中であって、国及び都道府県のご指導並びに生産者の経験及び技術力でなんとか優良な種苗の供給体制を維持しているところである。

一方、現在において最大の懸案となっているのが、伐採後に植林されない即ち再造林が進まないという問題である。

国産材の供給量が拡大しているのにも関わらず、主伐後の再造林が伸び悩むという事態は、森林資源を「伐って(きって)、使って、植える」という森林を循環的に利用していく理念が崩れるばかりではなく、2050年カーボンニュートラルの実現にも悪影響を与えることは必定である。

再造林が進まないという状況は、即ち苗木需要量の見通しが不透明ということを意味し、全国の苗木生産者に大きな不安感を与えているところである。

このような状況下で、我々、全苗連の苗木生産者は、これまでの経験・実績・技術に基づき、品質の保証された優れた苗木の安定供給に大きな使命を担っているところであり、①普通苗(裸苗)からコンテナ苗への切り替え、②特定苗木や花粉症対策苗木の供給、③カラマツの増産、④コウヨウザンやセンダンなどの早生樹の供給など苗木に対する要請の変化にもしっかりと対応していくこととしている。

我々、全苗連の苗木生産者は、本日ここに次の事項の実現について強く要望する。

- 一 主伐の増加に対応する確実な再造林に必要な森林整備予算及び苗木生産予算の拡充
- 一 森林環境譲与税の森林整備への活用が一層推進されるような財源配分の検討と市町村への支援強化
- 一 苗木需給量の見通しの提供並びに苗木の予約生産・販売流通体制の構築
- 一 後継者育成並びに外国人労働者の円滑な雇用推進の支援
- 一 エリートツリー等の成長に優れた苗木による再造林を促進する仕組みの創設
- 一 苗木生産の元となる種子・穂木の安定供給体制の確立
- 一 コンテナ苗生産に適した品種や優良品種の開発並びに生産技術の開発推進
- 一 調和のとれた苗木生産者組織の育成強化

以上、決議する。

令和4年9月29日

全国山林種苗協同組合連合会

全苗連・苗組の行事予定

- | | |
|------------|---|
| 11月12日～13日 | 全国育樹祭(大分県) |
| 11月17日～18日 | 近畿地区林業用種苗需給連絡協議会(和歌山県) |
| 11月23日 | (第61回)農林水産祭(明治神宮会館) |
| 11月24日～25日 | 九州地区林業用種苗需給連絡協議会(佐賀県) |
| 11月(書面開催) | 北海道・東北地区林業用種苗需給連絡協議会(岩手県) |
| 11月(書面開催) | 東海・北陸地区林業用種苗需給調整協議会(福井県) |
| 11月(書面開催) | 中国地区林業用種苗需給調整協議会(岡山県) |
| 12月8日 | コンテナ苗生産技術等標準化に向けた調査委託事業第2回検討委員会(日本森林技術協会) |
| 12月21日～22日 | 四国地区林業用種苗需給連絡協議会(愛媛県) |
| R5年1月(調整中) | 関東地区林業用種苗需給調整協議会(東京都) |
| 5月12日 | 令和5年度全苗連理事会(ホテルメトロポリタン エドモント飯田橋) |
| 5月26日 | 令和5年度全苗連通常総会(ホテルメトロポリタン エドモント飯田橋) |